

第3学年社会科学学習指導案

日時 平成28年11月16日(水)14:10~15:00

場所 南舎3階 3年B組教室

授業者 河田 明宏

1 単元「現代の民主政治と社会」について

本単元は、国会を中心とする民主政治や法に基づく公正な裁判などのしくみを理解させるとともにその意義を考えさせ、人権を尊重し、自由と権利を保障する民主政治を守り発展させようとする意欲と態度を養う。そして、主権者として選挙や裁判員制度などを通して、政治参加するための態度を養っていくことをねらいとしている。

そのため、学習を進めていく上で、生徒の関心意欲を引き出し、様々な資料を活用しながら以下のことに留意する。

- ・既習事項を踏まえ、国会・内閣・裁判所が互いにどのような関係か、それぞれの役割を理解した上で説明できるようにする。
- ・人権保障の面から裁判の在り方について考えられるような実例をもとにした資料を提示し、追究意欲を喚起する。

このような学習活動を通して、民主政治の在り方を理解し、調べたり、仲間に自分の考えを伝えたりすることで、自分も主権者の一人であるという認識のもてる生徒を育てたい。

2 生徒の実態

生徒は資料追究や小集団の交流活動など意欲的に取り組むことができる。しかし、県の学力状況調査の結果によれば、資料から情報を的確に読みとって、課題を追究することや、単元全体で学習内容を構造的に捉えることを苦手としている生徒が多いことが明らかになった。クラスに目を向けても自分の実体験を生かしたり、学習したことと社会生活とを結びつけて考えたりすることを苦手としている生徒が多い。

レディネステストを行った結果、以下の生徒の実態を捉えることができた。

- ・冤(えん)罪という言葉を知っているか。(81%)
- ・裁判員になって、裁判に参加したいか。(66%)

以上のことから、自分の生活との関連を図りながら、具体的な情報を根拠に考察したり、判断したりすることを通して、自分が捉えた認識を仲間に対して適切に表現できる姿を求めている。

3 研究内容と本時との関連

(1) 研究内容 について

本時の内容で取り扱う「冤罪と再審」について、与えられた資料から、自分なりの根拠をもって説明することができない生徒がいると予想される。そこで、以下のように自らの立場を明確にして意思表示をさせたり、双方向の言語活動を仕組んだりして、ねらいに迫る。

「菅家さんの立場」や「司法の立場」から再審に至る経緯について考える。

足利事件の再審に至るまでの経緯から、人権保障の面での裁判所の意義について、既習事項を生かしながら考える。

まとめを書く前に本時学習した内容をペアで交流することを通して、学習の確実な定着を図る。

において、立場を明確にしたり、他の立場の意見とつなげたりしながら菅家さんに再審の結果無罪判決が出された理由を追究していく。では、や既習事項を踏まえながら、裁判の意義について認識を深めていく。

(2) 研究内容 について

終末のまとめを書く活動では、資料から考えたことをもとに裁判の意義について書く。その際に、自分の考えが明確になった資料や仲間の意見から学んだことを書くように促し、理解を深めたことを価値付けていく。

4 人権教育の観点から

実態調査では、資料から情報を的確に読みとり、課題を追究することや、単元全体で学習内容を構造的に捉えることに弱さがあることがわかった。そこで、人権教育の三つの力のうち、本時育みたい力を「個人の尊厳と人権の尊重の意義についての広い視野からの正しく認識する力(認識力)」とし、資料から社会的事象について多面的・多角的に考察する姿を求めている。

5 単元指導計画

単元入口の生徒の意識
 民主主義の意義や選挙のやり方については分かった。あと3年後には自分たちも投票する権利がある。しかし、自分たちが選ぶ人たちが国会や内閣、裁判所でどんな仕事をしているか知らない。どんなしくみやどのように政治や裁判が行われているか知りたい。

時数	課題と生徒の意識
1	<p>国会はどんなしくみだろうか。</p> <p>国会には衆議院と参議院があり、衆議院は任期が短く、衆議院の優越が認められている。参議院が置かれているのは国民の意見を広く取り入れ、慎重な審議を行い、衆議院の行き過ぎをおさえるためだ。</p>
2	<p>国会は政治でどんな役割があるだろうか。</p> <p>国会は唯一の立法機関であり、法律の制定や予算の審議・議決、内閣総理大臣の指名、条約の承認などを行っている。また、弾劾裁判など裁判官をやめさせるかどうかの判断も国会の役割である。</p>
3	<p>国会と内閣はどのような関係だろうか。</p> <p>国会と内閣は議院内閣制で結びついており、解散や大臣の指名、不信任の決議など互いに関係し、均衡を図っている。</p>
4	<p>公務員の仕事を減らすような行政改革が行われるのはなぜか。</p> <p>公務員が仕事を行うことは国民の税金を使うことになる。できるだけ、国民の税金負担を減らすために、国の事業を民営化したり、規制緩和したりして小さな政府を目指している。</p>
5	<p>裁判所はどのようなしくみだろうか。</p> <p>裁判には最高裁判所と下級裁判所に分けられ、上告や控訴など3回裁判が受けられる三審制がとられている。これは裁判を慎重に行い、人権を守るためである。</p>
6	<p>刑事裁判と民事裁判はどのような違いがあるか。</p> <p>刑事裁判は犯罪行為について有罪・無罪を決める裁判である。検察官が捜査し起訴をする。民事裁判は私人同士や行政との利害の対立で行われる。</p>
7 本時	<p>一度、無期懲役が確定したのに、その後、無罪判決が出されたのはなぜか。</p> <p>管家さんや支援者の思いが受け入れられ、新たな証拠により裁判のやり直しが行われた。裁判は国民の人権を保障するために慎重に行われなければならない。</p>
8	<p>裁判員制度が導入されたのはなぜか。</p> <p>裁判は国民が利用しづらく、費用と時間がかかりすぎたため、裁判を身近にするために裁判員制度が導入された。新たな制度なので様々な課題があり解決をしなくてはならないことが分かった。</p>
9	<p>国会・内閣・裁判所はどのような関係だろうか。</p> <p>国会・内閣・裁判所は互いに抑制し合い、均衡を保つことによりそれぞれの権力の行き過ぎを防いでいる。</p>

単元出口の生徒の意識

三権は政治家や裁判官に任せればいいということではない。自分たちの願いを実現するためには様々な参加方法があることが分かった。自分たちの願いや権利を守っていくためにも主体的に政治や選挙、裁判員制度について考えていく必要がある。また、身近な岐阜県や大野町の政治はどのようになっているのだろう。

6 本時の目標

足利事件において、一度無期懲役が確定したのにもかかわらず、再審が行われた理由を考えることを通して、裁判のやり直しを求めた菅家さんや支援者の思いが受け入れられ、再度裁判が行われ、無罪が証明されたことを知り、裁判によって国民一人一人の人権が保証されていることに気付くことができる。

7 本時の展開 (7 / 9)

段階	学習活動	研究内容 (,) 人権教育の観点			
つかむ	<p>1 「足利事件」の経過から疑問をもち、課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も再審請求が棄却されている。 ・17年以上経ってから、裁判のやり直しが行われている。 <p>一度、無期懲役が確定したのに、その後、無罪判決が出されたのはなぜか。</p>	<p>「資料から考えたことはあるか」について「さんから発言」で意見をつなげていき、資料からの疑問点や意見を深め課題化する。(研究)</p>			
深める	<p>2 予想を立て交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅家さんが無罪を訴え、裁判のやり直しを求めたからではないか。 ・裁判の過程で何か間違いがあったことに気付いたからではないか。 <p>3 資料をもとに課題に対して自分の考えをつくり、発表する。(全体)</p> <table border="1" data-bbox="225 853 885 1182"> <tr> <td data-bbox="225 853 432 1182"> <p>【菅家さん】 やっていないのに自白をしてしまった。無罪を訴え続け、裁判のやり直しを求め続けたことが受け入れられた。</p> </td> <td data-bbox="432 853 655 1182"> <p>【裁判所】 DNAの再鑑定の結果、証拠として認定し、裁判所は、裁判のやり直しを認め、裁判から無罪判決を出した。</p> </td> <td data-bbox="655 853 885 1182"> <p>【社会】 証拠不十分として、支援団体を中心に菅家さんを信じて、無罪を求め裁判のやり直しを求め続けた。</p> </td> </tr> </table> <p>「菅家さんは長い間人権が守られていなかった。様々な人の思いや努力もあり、菅家さんは再審で無罪判決を勝ちとったんだな。」</p> <p>「裁判は慎重に行うためのしくみとして三審制があるが、刑が確定しても全ての人の人権を守るために、刑を覆したりすることもあるんだな。」</p>	<p>【菅家さん】 やっていないのに自白をしてしまった。無罪を訴え続け、裁判のやり直しを求め続けたことが受け入れられた。</p>	<p>【裁判所】 DNAの再鑑定の結果、証拠として認定し、裁判所は、裁判のやり直しを認め、裁判から無罪判決を出した。</p>	<p>【社会】 証拠不十分として、支援団体を中心に菅家さんを信じて、無罪を求め裁判のやり直しを求め続けた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想が立てられない生徒に対して「菅家さんの立場」や「司法の立場」など視点をもたせて予想を立てさせる。 <p>資料追究の際にペアでの相談を促し、特に視点別の交流を行い、自分の考えをつくらせる。(研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体交流では、根拠や理由を明確にさせるために「～だから」という言葉を使いながら課題とつないで発言をさせる。 <p>学習活動3において、菅家さんの思い、裁判所が新しい証拠を認めたこと、再審を求めた支援団体の視点から追究していくことを通して、裁判が国民の人権を守るために再審を行ったり、判決を覆したりすることに気付き、個人の尊厳と人権の尊重の意義について正しく認識する力を養う。(認識力)</p> <p>本時の振り返りをペアで交流し、生徒一人一人が確実に本時の課題に対しての答えが出せるようにする。(研究)</p>
<p>【菅家さん】 やっていないのに自白をしてしまった。無罪を訴え続け、裁判のやり直しを求め続けたことが受け入れられた。</p>	<p>【裁判所】 DNAの再鑑定の結果、証拠として認定し、裁判所は、裁判のやり直しを認め、裁判から無罪判決を出した。</p>	<p>【社会】 証拠不十分として、支援団体を中心に菅家さんを信じて、無罪を求め裁判のやり直しを求め続けた。</p>			
まとめる	<p>4 課題に対する振り返りを自己評価カードに書き、発表する。</p> <p>一度、無期懲役が確定したけれど無罪判決が出されたのは、菅家さんや支援者の思いが受け入れられ、新しい証拠により、裁判のやり直しが行われたからだ。裁判所は刑が確定しても、やり直しをしたり、刑を覆したりすることがあるので、さんが言うように、裁判は人権を守るために行われていることが分かった。国民一人一人の人権を大切にするためには、慎重な裁判を行う必要があると思う。</p> <p>5 判決後の菅家さんの思いを聞き、次時へつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二度と冤罪がないように裁判制度の見直しを求める活動に積極的に取り組まれてきたことが分かった。菅家さんはこのような活動を通して、人々の人権を守ろうとしている。しかし、菅家さん自身の人権が守られなかったことは非常に残念だ。二度とこのようなことがないように、自分は何ができるだろうか。 	<p>振り返りでは、誰のどんな意見により分かったかを書かせ、交流の場で話を聞いて理解した聞き手と、周りの仲間に理解を促した発言者を価値付ける。(研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁判は国民の人権を守るために行われていることを理解させると同時に、菅家さんの人権が長い間侵されていたことに気付かせる。 <p>評価規準【思考・判断・表現】 裁判により、国民の人権を保障されていることについて、菅家さんや支援者の努力と、法や証拠に基づく裁判制度とを関わらせて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>			